



# 大阪府職員研修で「NPO法人 SEAN」の活動に参加して

大阪府生活文化部男女共同参画課 野中 輝己

大阪府では、行政との協働のパートナーのひとつである民間非営利の市民活動団体(NPO)での活動体験を通じて、NPOの現状や課題・展望を学び、NPOとの協働を実践していくため、研修を実施しています。

私自身これまでNPOとの協働を経験したことが無く、NPOの活動に「見て、聞いて、触れて」みたいとの思いから、この研修に参加しました。研修先は、私の仕事と非常に関わりが深い「NPO法人SEAN」さんにお世話になり、講座、保育、フェスタ、啓発事業など様々なイベントに参加させていただきました。その体験の感想を述べさせていただきます。

研修では、一時保育を体験させていただきました。子育ての経験はありますが、保育は初め

ての経験で不安はありましたが、男性が私ひとりということもありまして、以外に子どもたちには人気がありました。一度に多くの子どもに接していると、それぞれの子どもの個性が顕著に現れ、改めて、個性の重要性を認識しました。さすがに、子どもが遊ぶ絵本などのおもちゃは、男の子用、女の子用との区別がつくものはなく、保育にもしっかりとジェンダーの視点が盛り込まれていました。

「協働」という体験で、SEANさんが高槻市と実施する「高槻市協働活性化モデル事業」にも一部オプザーバーとして参加させていただきました。高槻市立男女共同参画センターの職員との打合せでは、実際の事業に使用する会場の設営、動線などの細かい調整を行いながら、縦割

り行政に対する厳しい指摘や事業の広報では保健所の事業時への配布協力の要請など、その意気込みを強く感じました。これも高槻市との築かれた信頼関係によるものだと思います。

私の参加した当日は「子育て支援事業」として、特設コーナーを設け、子育てに関連する本の紹介、ビデオの上映のほか、栄養・育児に関する相談、さらに食育、ジェンダーなどの展示もありました。また、市の保健師さんによる子どもの発育等に関する相談など、幅広いイベントが実施され、まさに「協働」が進められています。この事業の企画には、これまでSEANさんが実施されてきた事業の凝縮が感じられました。特に感心を持ったのは、特設コーナーの歓談の場で、スタッフを含め来場者がそれぞれの悩みを打ち明け、語り合いを通じて子育てからジェンダーへと話の内容が展開していき、話し手の人生観が変わっていく様子が感じられたことです。まさしく、身近な良きサポーターを担っているようです。

4日間という短い期間ではありましたが、SEANさんの活動を体験させていただき、理念の実現を目指すエネルギーと行動力を感じました。講座や一時保育の参加者が思ったよりも集まらず、経費の心配もされている場面もありましたが、何よりも「楽しんでいる」という印象を強く受けました。これからも、持ち前の機動力と企画力を武器に、支援を必要とする方々が身近で、気軽にサポートを受けることができる「場」として、また、行政の手が届かないきめ細やかなサービスの提供を期待します。

最後に、お世話になりましたNPO法人SEANの皆様今後の益々のご活躍を心よりお祈りしまして、お礼の言葉とさせていただきます。